

## テーマ2

### 自主防災組織のリーダー育成研修プログラム例(案) ～ 災害から住民の命を守るには ～

#### 【本研修プログラムのねらい】

- 3時間程度(休憩20分含む)の研修を通じて、災害から住民の命を守るための避難行動を促進するために、最低限必要と考えられる知識とスキルを身につけることのできるプログラムです。
- 本プログラムは、地震や台風・大雨などによる災害が生じた際に、地域(地区)の住民の生命、身体を守るため、適時適切な避難を可能にすることを目的として、学び理解することが望まれる事項を、「自主防災組織のリーダー育成のための教育・訓練カリキュラム」の中から抽出したものです。
- 具体的には、「災害への事前の備え」のうち、「わがまち(地域)の防災体制をつくる」の主要な項目と、「災害への対応」のうち、「発災の直前・直後に命を守る」の主要な項目について学習する構成としています。
- 単元毎の時間は目安として示しています。必要に応じ延長・短縮して実施するなどの活用も考えられます。
- なお、本プログラムは自主防災組織のリーダー向けのものですが、消防団、女性防火クラブ、民生委員・児童委員、社会福祉協議会などの自主防災組織以外の地域防災に関わる団体や組織のリーダー向けの研修においても活用することができます。

ワークショップ・演習可

単元	単元の学習項目 (大項目)	単元の学習項目 (中項目)	各単元の学習内容 (学習項目の概要)	所要(分)		備考	
				詳細	計		
1限目 自分の命を守るための避難行動	1	発災の直前・直後に命を守る<B11>	1 災害時にとるべき行動(全般)<C26>	地震災害や風水害等、災害発生直後から時間を追った形での行動・対応の流れを学ぶ。	5	100	C28スライドのうち、自宅や地域の災害リスクを確認する内容を使用
			2 安全な避難行動<C28>	安全な避難先や避難路の選定方法、避難の方法、地域における避難誘導や避難支援の方法について学ぶとともに、避難行動要支援者を含め、地域住民の安全な避難行動に必要なスキルを身につける。	60		
			3 避難に関する情報の収集<C27>	気象に関する情報や緊急地震速報、避難勧告等の避難情報を入手する方法、情報の読み方、情報に基づく基本的な行動について学ぶとともに、避難に関する情報を活用するためのスキルを身につける。	15		
			4 安全な避難行動<C28>	安全な避難先や避難路の選定方法、避難の方法、地域における避難誘導や避難支援の方法について学ぶとともに、避難行動要支援者を含め、地域住民の安全な避難行動に必要なスキルを身につける。	20		
2限目 地域ぐるみで支える要配慮者の避難	1	わがまち(地域)の防災体制をつくる<B8>	1 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制<C22>	要配慮者(高齢者・障がい者・乳幼児・妊婦・負傷者・外国人等)と避難行動要支援者の意味、要配慮者の特性等について学ぶ。また、災害時における要配慮者の支援の必要性、要配慮者の特性に応じた支援体制づくりの方法、配慮の方法を整理したマニュアル作成について学ぶ。(避難行動要支援者への避難支援も含む。)	60	60	C22のスライドのうち、どんな人が要配慮者か、避難時にどんなことに困るか、その対応のポイントを理解するスライドを使用